

「水」といういきもの

わたしたちは、絶えず呼吸をして、いろいろなものに支えられながら生きています。例えば食べ物、わたしたちの身の回りの動物や植物から「いのち」をいただいているのだ。

それと同じく、「水」も、「いのち」があるものだと思ふ。毎日、蛇口をひねれば当たり前のように出てくる水。飲みたいとき、好きなだけ飲む水。ときには雨となつてわたしたちの暮らしに影響を及ぼす水。わたしたちの生活のいろいろなところで水は役に立っているが、好きなときに好きなだけ使っているのかというと、そうではない。けれど、水を使わずに生活できるかというと、そうでもない。適度に水を使うことが、私にとって、「水を大切にすること」という言葉の意味だと思ふ。

小学校の時の社会の時間に、社会科見学で

奈良市立登美ヶ丘北中学校 二年

堺 琴葉

ダムと浄水場へ行った。ダムでは、たくさん水が溜まっていて、これだけの水が使われていることを知った。でも水がありすぎて、「水を大切にすること」ということがあまり分からなくなつたので、水がなければできないことを考えると、むだにはいけないものだということを改めて知った。浄水場では、たくさんの方が動いていて、たくさんの方が水をきれいにするために尽くしていた。汚れた水を元の状態に戻すには、これだけたくさんの方の時間と、多大な労力が必要だということを知り、「水を大切にすること」ということを深く考え、生活にも取り入れてみようと思つた。

それから私は、お皿を洗うときには、ずっと水を流しつ放しにせず、水を止めて洗い、歯を磨くときにも、水を流しつ放しにせず、

水をコップに溜めてから磨くことなどを心がけてみると、「水を大切にすること」は意外と簡単だと思つて、それを毎日続けて行つた。今でもそれは行い続けている。

近年、川の水質汚濁や海や湖で生き物が棲めなくなるなどのニュースをよく耳にするようになった。その原因として考えられることが環境の改変で、すべて人の手によるものである。つまり、人が川や海の環境を変えてしまふことによつて、水質汚濁が発生したり、そこに暮らす生き物のすみかがうばわれてしまつたりしてしまうのである。それを防ぐためには、日ごろからできるだけ水を汚さないような工夫をし、それを生活に生かしていくことが必要である。

「水」には、「いのち」がある。「水」は、生きている。確かに、蛇口をひねれば当たり前のように出会える「水」だが、それは限りあるものであり、すべての生き物にとって、なくてはならない存在である。だから、未来へと守り抜いていかなければならない。それを実現可能にするためには、「水」の「いのち」を大切にしていくことが一番である。人

間や動物、植物の生活に、なくてはならない存在である「水」。それにはかけがえのない「いのち」がある。その「いのち」こそが、わたしたちの生活を支えている。だからこそ「水を大切にしよう」という言葉があるのだろう。蛇口をひねれば出てくる水。作物や動物の活動に不可欠である水。ときおり、雨や雪となつてわたしたちの暮らしに深くかかわる水。一口飲めば、心の底から私を洗つてくれる水。地球の賜物とも呼ばれる水。その「水」の「生きる姿」を見守ることこそが、未来へ「水」の「いのち」を守り継いでいくことである。一人ひとりが「水」への関心を少しでも高めるということが、「水」の「いのち」を守り、未来へ継いでいくことの第一歩になると信じている。